

倉敷市民憲章

私たちは、日本のふるさと瀬戸内海と母なる高梁川にはぐくまれ、
古い伝統と洋々たる未来にかがやく倉敷市民の誇りをこめて

- 一 自然を生かし、緑と花のあるきれいな環境をつくります。
- 一 人間をたいせつにし、青少年には夢、老人には安らぎのあるあたたかい社会をつくります。
- 一 秩序を守り、平和で安全なまちをつくります。
- 一 働くことによるこびをもち、明るく健康な家庭をつくります。
- 一 教養を高め、世界と通じ、個性ある文化をつくります。

(昭和47年2月1日 制定)



はじめに

倉敷市は、歴史と文化が息づく瀬戸内の中核都市です。この発展を担ってきたのは、倉敷市で学び育った人々です。また、その礎となったのは、歴史と文化に支えられた倉敷市のひとつづくりであり、倉敷市の教育は、この「ひとつづくり・人材育成」を最重要課題として進めてまいりました。

そのような中、平成28年5月に本市において開催された「G7倉敷教育大臣会合」では、教育を通じた社会的包摂の促進や国際的な視野で考える人材育成をめざすとともに、G7の枠組みの中で教育における持続可能な開発目標であるSDGsの推進の重要性が初めて示された「倉敷宣言」が採択されています。



倉敷市においては、この「G7倉敷教育大臣会合」の開催を見据え、世界に開かれた視点を加えたものとして、平成28年2月に教育の振興に関する根本的な方針である倉敷市教育大綱を策定し、「“From Kurashiki”が誇りとなるひとつづくり」を基本理念として平成28年度から令和2年度までの5年間、教育行政の推進に取り組んでまいりました。

この間、人口減少、少子高齢化などの課題が進展していく中、全国的に予期できない自然災害が頻発し、特に平成30年7月豪雨による未曾有の大災害は、本市に甚大な被害をもたらし、仮校舎での学校生活が余儀なくされるなど、子どもたちの学習環境にも大きな影響を与えました。さらに、近年では新型コロナウイルス感染症の拡大により、学校における全国一斉の臨時休業要請等、教育課程の実施に支障が生じる事態が起こり、教育現場においても新しい生活様式を導入するなど、これまでにはなかった対応が求められています。

また、これからの社会はAIやIoTなどの先端技術を活用するSociety5.0時代の到来、医療体制の充実等による人生100年時代の到来など、新たな時代を迎えます。

こうした新たな時代に対応していくために、学校教育においては、基礎的・基本的な学力をしっかりと身につけたうえで、子どもたちが主体的に判断し、行動できる力を育てていくとともに、ICTを活用した授業や英語教育などの推進に積極的に取り組むことが必要です。また、生涯学習においては、市民一人一人が生涯にわたって学び続けることができ、学びの成果を最大限に発揮できるような社会にすることが必要です。そして、ふるさと倉敷を誇りに思い、このまちの未来を力強く担う「人財＝ひと」を育てるために、今まで以上に学校・家庭・地域が連携していくことも必要です。

倉敷市としましては、これらの視点を踏まえ、今まで進めてきた方針を引き継いだうえで現行の大綱を見直し、この度、新たな「倉敷市教育大綱」を策定しました。

今後とも、これを教育の目標や施策の根本的な方針として教育行政を推進し、市民の皆様と共によりよい倉敷の未来を創ってまいります。

令和3年3月

倉敷市長 伊東香織

1 大綱の位置付け

倉敷市教育大綱は、倉敷市民憲章の精神を尊重し、倉敷市におけるまちづくりの最上位計画である倉敷市第七次総合計画との整合性を図るとともに、教育分野における個別計画である倉敷市教育振興基本計画が、より効果的に推進されるよう、教育の目標や施策の根本的な方針として策定するものです。



2 大綱の期間

倉敷市教育大綱の期間は、令和3年度から令和7年度までの5年間とします。なお、国の動向、社会・教育情勢の変化等に伴い、必要に応じて見直しを行います。

3 持続可能な開発目標（SDGs）の理念

SDGsは、世界にある課題をみんなで解決し、将来にわたって続くよりよい世界をめざすため、平成27年の国連サミットにおいて採択された国際目標です。平成28年5月に倉敷市において開催された「G7倉敷教育大臣会合」では、教育を通じた社会的包摂の促進や国際的な視野で考える人材育成をめざすとともに、G7の枠組みの中で教育におけるSDGsの推進の重要性を初めて世界に示した「倉敷宣言」が採択されています。この「倉敷宣言」で採択された概念は、本市が高梁川流域で長年培われてきた考えに基づいて進めてきたまちづくりと通じるものがあり、令和2年7月には、SDGsの達成に向けた優れた取組が評価され、倉敷市は「SDGs未来都市」に選定されています。このようなことから「倉敷宣言」で採択された概念を礎に、SDGsの理念と合致した大綱とします。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



4 大綱の基本理念

倉敷市教育大綱の基本理念である「“From Kurashiki”が誇りとなるひとづくり」には、次の3つの思いが込められています。

I am from Kurashiki.

“倉敷のひと”であることを
誇りに思うひとに

「倉敷で育った」「倉敷で学んだ」
「倉敷に住んだ」ことを誇りに思うひとになるということです。「このまちで育ってよかった。」「このまちで学んでよかった。」「このまちに住んでよかった。」と思えるひとになってほしいという思いを込めています。

This is from Kurashiki.

“倉敷らしさ”を誇りに思うひとに

倉敷には、世代を超えて受け継がれてきた個性的で魅力的な歴史・文化が息づいています。その歴史・文化に支えられながら、倉敷の未来を創っていくことを誇りに思うひとになるということです。倉敷の魅力ある地域資源を活用して、倉敷を活力ある地域にしていきたいという思いも込めています。

「“From Kurashiki”が 誇りとなるひとづくり」

From Kurashiki to the world

“倉敷のよさ”を世界へ
発信できるひとに

グローバルな観点を持ち、倉敷から世界に向けて視野を広げ、倉敷の魅力を世界へ発信していくことができるひとになることが誇りとなるということです。豊かな個性と創造力で、世界の人たちに倉敷のよさを知ってもらいたい、共有してもらいたいという思いを込めています。

5 「“From Kurashiki”が誇りとなるひとづくり」 を実現するための基本方針

思いやりの心を持ち、自分らしく、たくましく生き抜く 力を育成する

平成30年7月豪雨災害や新型コロナウイルス感染症など予測困難な事象が生じている現代社会においては、一人一人がお互いの違いや良さを認め合い、相手への思いやりの心をもつとともに、自らで考え行動する力を身につける必要があります。

また、今後、Society5.0など新たな社会を迎える中で、これからの社会に対応していく力も必要です。

このため、これからの社会を生きていくすべての子どもたちが自分らしい強みと自信を持ち、基礎的・基本的な学力や知識を身につけ、自ら考え、行動し、たくましく生き抜くことができる力を伸ばす教育を推進します。



夢と生きがいを持ち、学び続けることができる社会を 実現する

学びに終わりはなく、ひとは生涯にわたって学び続けていくものです。人生100年時代の到来が予測される現在、市民一人一人が健康でいきいきと暮らすためには、人生に夢と生きがいを持ち、知識や教養を高め、生活を実り多いものにすることが必要です。

このため、一人一人が何歳になっても、様々な分野で自分自身の可能性を伸ばし、学び直しや新たなことに挑戦するチャンスを大きく広げ、学んだことを生かし、地域がつながり支え合う生涯学習社会の実現をめざします。



ふるさと倉敷を誇りに思い、倉敷の未来を担っていく力を育成する

人口減少に伴う地域社会の縮小が懸念される中、「地方創生」に向けて、地域を担う「人財＝ひと」を地域の中で育成するとともに、日本遺産を始めとした倉敷が誇る特色ある地域資源を活用して、その魅力を国内外へ広く発信し、人々が安心して暮らせるような持続可能なまちにしていく必要があります。

このため、平成28年5月に本市で開催された「G7倉敷教育大臣会合」で採択された「倉敷宣言」の中で推進に取り組むこととしたSDGsの理念を取り入れ、学校、家庭と地域が連携し、家庭や地域の教育力を高め、地域全体で子どもを育てる環境づくりを進めます。

また、郷土の先人、歴史、文化等を学び、郷土への理解、愛着、誇り、そして、将来このまちを担っていく力を育成します。





倉敷市教育大綱

令和3年3月



倉敷市教育委員会 教育企画総務課

〒710-8565 倉敷市西中新田 640 番地

TEL : (086)426-3805 / FAX : (086)421-6018

MAIL : eduadm@city.kurashiki.okayama.jp